

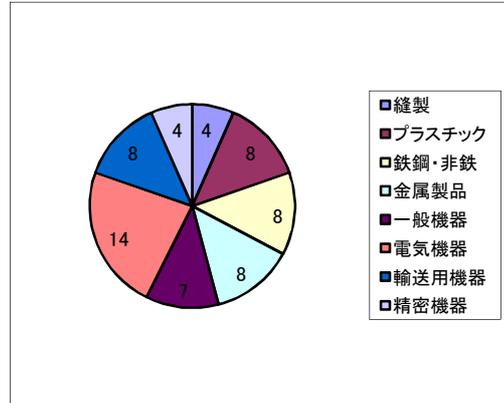
発注動向

-2011.11-

- 調査時点 平成23年10月調査(平成23年9月末時点)
- 対象企業 150社
- 調査時期 4半期毎(3、6、9、12末時点)
- 回答企業 61社(回答率:40.6%)

<業種内訳>

縫製	4	6.6%
プラスチック	8	13.1%
鉄鋼・非鉄	8	13.1%
金属製品	8	13.1%
一般機器	7	11.5%
電気機器	14	23.0%
輸送用機器	8	13.1%
精密機器	4	6.6%



■ 全業種総合

震災後から、全体的に生産高は回復傾向ではあるものの、今後の先行きは不透明であるとの結果となった。

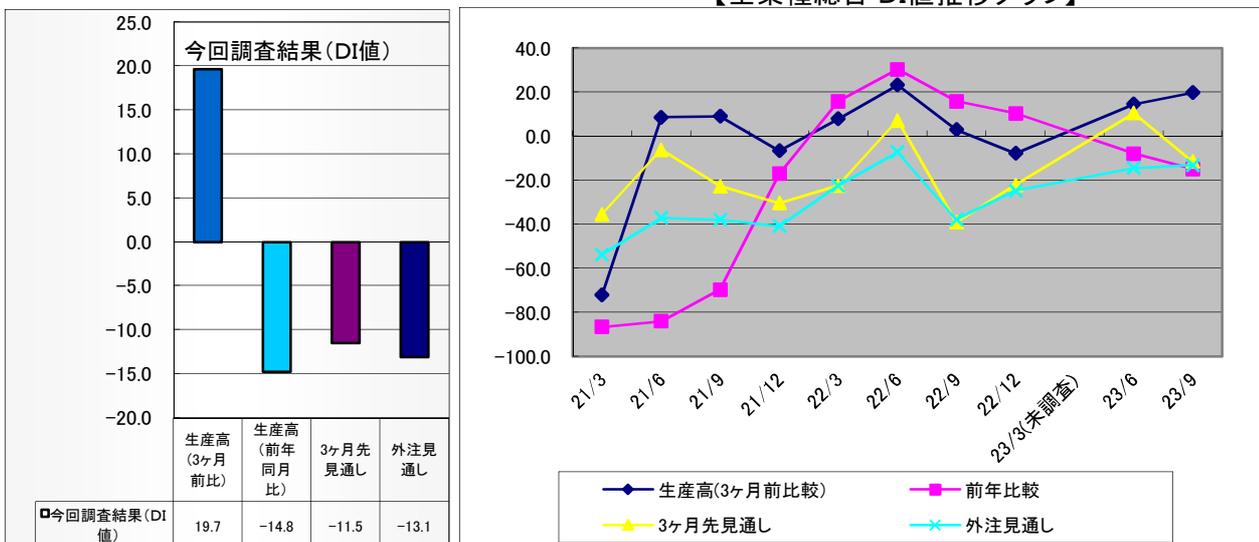
「生産高(3ヶ月前比較)」DI値は、前回から5.2ポイント増の19.7と、前回から更なる回復傾向がうかがえる。

しかしながら、「生産高の前年比較」となると▲14.8(前回▲7.9)で6.9ポイントの悪化となり、依然前年ベースまでは戻っていない。

「3ヶ月先見通し」としても、▲11.5(前回10.5)で▲22.0ポイントと大幅に悪化しており、円高等の影響から、今後の先行きは厳しいとの見方が強いようである。

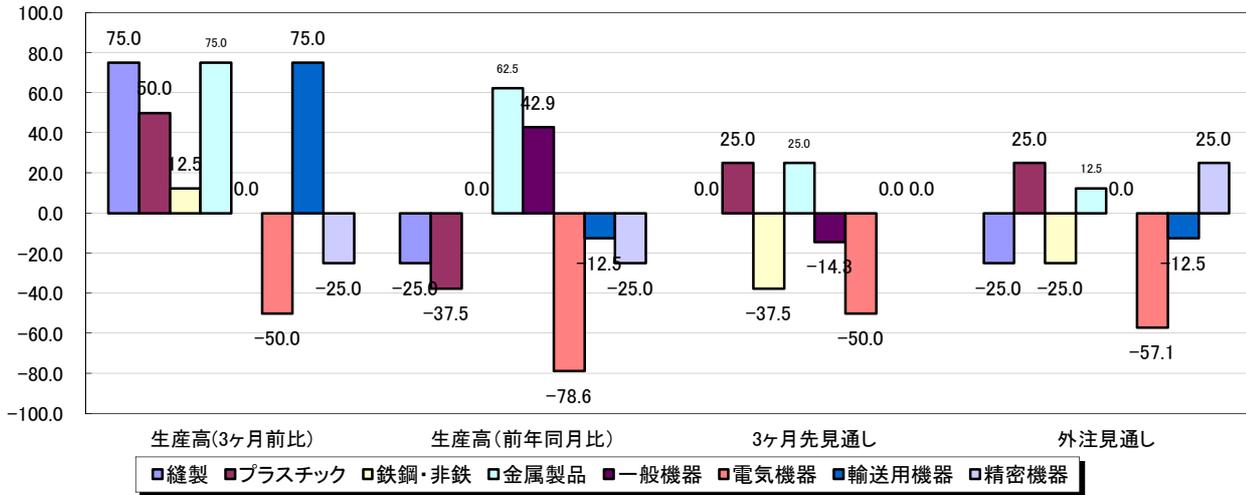
「外注見通し」は▲13.1(前回▲14.5)でほぼ横ばいで推移しており、依然マイナスの数値を示し、回復の兆しは見えない状況である。

【全業種総合 DI値推移グラフ】



■ 業種別

【今回調査結果DI値】



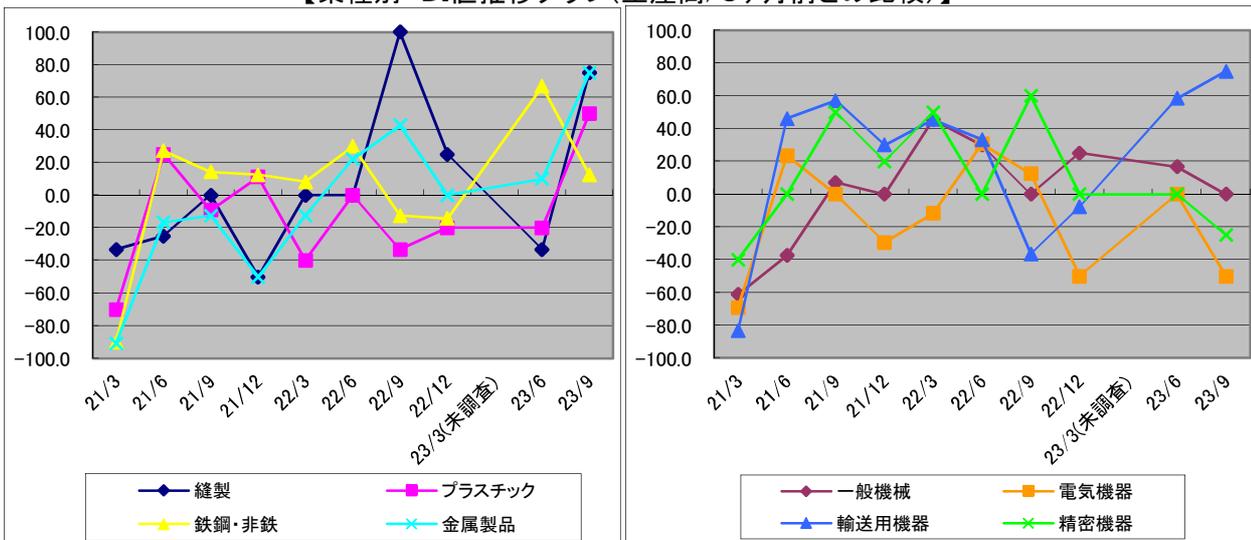
■ 生産高(3ヶ月前との比較)

生産高(3ヶ月前比較)は、業種間により、傾向がそれぞれ分かれる結果となった。

「プラスチック」は50.0(前回▲20.0)、「縫製」は75.0(前回▲33.3)、「金属製品」は75.0(前回10.0)と大幅に改善となった。しかしながら、「プラスチック」、「縫製」は前年比較の生産高ではマイナスのDI値であり、依然として前年ベースまでは戻っていない。

また、「精密機器」は▲25.0(前回0.0)、「電気機器」は▲50.0(前回0.0)と大きく悪化となった。「鉄鋼・非鉄」は12.5(前回66.7)と54.2ポイントの大幅悪化となるも、プラスのDI値は維持する結果となった。

【業種別 DI値推移グラフ(生産高/3ヶ月前との比較)】



■ 生産高(前年同月との比較)

生産高(前年比較)も業種間により傾向が分かれる結果となった。

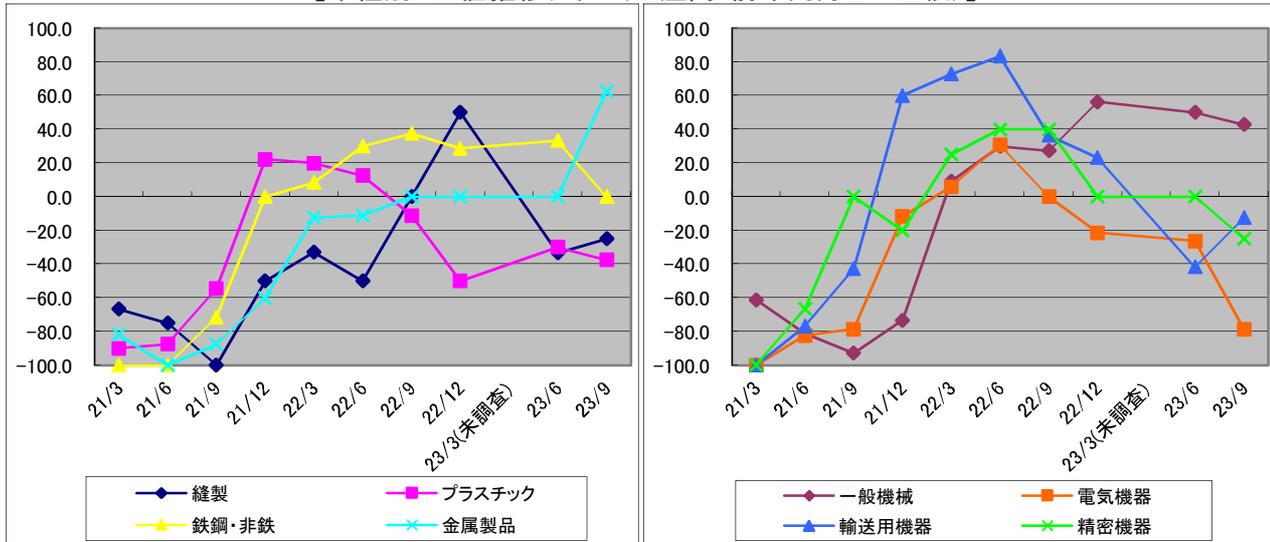
「金属製品」で62.5(前回0.0)で62.5ポイントの大幅改善となった。

一方で、「電気機器」は▲78.6(前回▲26.3)と前回から更に52.3ポイントもの悪化となり、家電事業など、業界のかなり厳しい現状を示している。

また、「輸送用機器」は▲12.5(前回▲41.7)で依然マイナスではあるが、前回から29.2ポイントの改善となった。

「一般機械」は、42.9(前回50.0)で微減も、高水準で推移している。

【業種別 DI値推移グラフ(生産高/前年同月との比較)】



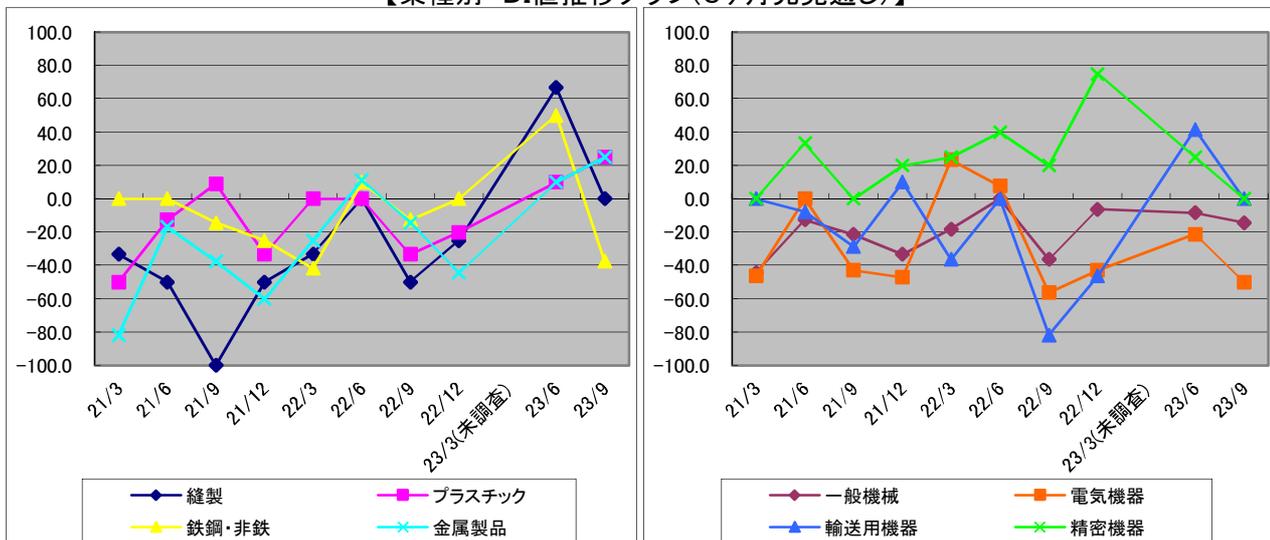
■ 業況3ヶ月先見通し

3ヶ月先の見通しは、「プラスチック」、「金属製品」で改善を示すも、多くの業種で悪化の見通しとなった。

「プラスチック」、「金属製品」は、ともに25.0(前回10.0)と15.0ポイントの改善となった。

一方で、特に「鉄鋼・非鉄」は▲37.5(前回50.0)と87.5ポイントもの悪化で、急激に先行きが厳しくなるとの見方が強い。

【業種別 DI値推移グラフ(3ヶ月先見通し)】



■ 外注見通し

外注見通しは、多くの業種で改善を示すも、「鉄鋼・非鉄」、「電気機器」は悪化となった。

「金属製品」は12.0(前回▲20.0)で32.5ポイント改善、「精密機器」も25.0(▲25.0)で50.0ポイントの改善となった。

一方で、「鉄鋼・非鉄」は▲25.0(前回0.0)で25.0ポイント悪化、「電気機器」は▲57.1(前回▲31.6)で、25.5ポイントの悪化となった。

【業種別 DI値推移グラフ(外注見通し)】

